

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広 報 誌

7

2026
(令和8年)
No. 238



「The Magic Hour」

夕暮れ時の長野市北石堂町の工事現場。「マジックアワー」が変わりゆく街を包み込む瞬間、黄金色から濃いブルーへと移ろう空に力強く伸びるクレーンの幾何学的なシルエットが美しく、思わずカメラを向けました。1日の終わりと、未来への発展を感じる風景です。

(中島 麻希)

目 次

2. ■ 県建設業協会長野支部長就任あいさつ

■ 会社周辺に花の苗植栽

■ 長野工高生に丁張技術伝授

3. ■ 長野市建設業協会会長就任あいさつ

■ 災害に備え土のう6000袋作製

4. ■ 「安全・安心で持続可能な地域社会を実現」

長野建設事務所長 江守 護

5～7. ■ 委員長・部会長就任あいさつ

8. ■ 「休日には孫と」

(株)鹿熊組土木工事部所長 小島 泰輔

9. ■ 「松代城二の丸と花の丸」

松代文化施設等管理事務所研究員 山中 さゆり

10～11. ■ 関連団体役員改選

12. ■ 協会日誌 ■ 会員動静



時代に即した効率的運営を推進

長野県建設業協会長野支部
支部長 鹿熊 聡

5月13日に開催された長野支部定時総会において支部長として選任いただきました鹿熊聡です。全く支部長の器ではありませんが、受けたからには自分なりに全力で努力して参りたいと思います。

協会に関わるようになって25年が経過し、常に協会員のためを思って行動する多くの支部長の姿を見てきましたが、自分自身が同じレベルの行動・判断ができるとは未だに思っておりません。ただ、多くの先達の姿を見て学んだことを、協会並びに協会員の発展のため地道にそして確実に実行していこうと思っております。

中東情勢、急激な物価上昇、生産年齢人口の急激な減少、円安、金利上昇、M&Aや承継者不在

による業者数の減少等、建設業を取り巻く環境が大きく変化しています。このような厳しい現代に則した効率的で効果のある運営ができるよう、着実にそして迅速な進化を意識して努力して参りたいと思います。

また、近い将来、多額の維持修繕費の負担が予想されている長水建設会館の財政健全化に対しても、長野市建設業協会・犀協会等他団体とも連携し、引き続き取り組んでいき、後生に憂いを残すことの無いよう進めて参りたいと思います。

いずれにしましても、今まで通りでは現状維持すらできない時代になっております。支部の役員・委員会や部会へ参画いただく皆様、そして会員企業お一人お一人のご協力がないと何も前に進めません。会員企業の皆様には、引き続き、協会活動へのご理解と強いご協力をお願い申し上げ、支部長就任のごあいさつとさせていただきます。



会社周辺に 花の苗植栽

ボランティアで道路の美化事業に取り組む県建設業協会長野支部は12日、植栽用のマリーゴールドとサルビアのポット苗の配布を長水建設会館で行った＝写真。同支部では、建設業美化事業ボランティア「クリーン・グリーン&サポート作戦」を展開しており、今回が20回目。

美化事業に加え障害者支援活動の一環として、若穂保科の障害福祉サービス事業所「廣望会」の入所者が育てたポット苗約790株を同支部が一括購入、植栽を希望する会員43社がそれぞれ19ポット程度を会社周辺の清掃をした道路沿いに植栽した。

苗を受け取りにきた更水建設工業の田中章社長は「毎年、プランターに移し替えて県道沿いの機材庫の周りに置いている。成長した花は9月頃ま

で咲いているので、その間、周辺の景観を彩り、見る人を楽しませてくれている」と話していた。



長工高3年生に 丁張り技術を伝授

長野工業高校は6月29日、県建設業協会長野支部の協力で、土木工事の基本技術である「丁張り」の実習研修会を開いた。土木構造物の施工時に基準となる丁張りについて学ぶとともに、地元建設業界の技術者との交流を通じて建設業への理解を深めることを目的に、土木工学科3年生38人が参加した。

研修では、小山田雄治副支部長と、前年度土木委員長の原山大輔同はじめ、土木委員16人と女性部員2人が講師を務めた。

知恵と力を結集し、地域の未来を支える



(一社)長野市建設業協会
会長 川浦 俊樹

長野市建設業協会の会長として2期目を迎えることとなりました。改めて深い責任を感じるところであります。まずは、これまで協会の運営にご理解とご協力を賜りました会員企業皆様に、心より御礼申し上げます。

私たち建設業は、地域の安全と暮らしを支える基幹産業であり、災害対応、インフラ整備、都市の発展に欠かせない存在です。近年は、気候変動による災害の激甚化、人口減少に伴う担い手不足、技術革新への対応など、業界を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした課題に対し、協会として一層の連携と

行動が求められていると強く感じています。今後も地域に信頼される建設業協会であることを軸に据え、災害時の迅速な応急対応体制の充実、「ササランド」での木工体験や「ながの地域まるごとキャンパス」のプログラム参加、小中学校でのキャリアフェスなどにおける講師派遣等、一人でも多くの子供・学生が建設業に興味関心を持つための魅力発信、若手人材の育成や働きやすい職場環境づくりへの要望・支援に注力して進めてまいります。

また、DXや新技術の導入による生産性向上と安全性の確保など会員企業の競争力向上にも寄与していきたいと考えます。行政との連携を深め、長野市のまちづくりに建設業として積極的に参画し、協会として知恵と力を結集し、地域の未来を支える存在であり続けたいと思います。

会員の皆様には今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

災害に備え土のう6000袋 市職員も参加し作製

長野市建設業協会は5月22日、市の要請を受け、犀川右岸長野大橋上流河川敷で土のう6千袋を作製した。市は、豪雨などによる河川氾濫に備え、4万袋を目標に土のうを備蓄しており、同協会と2012年に締結した災害協定に基づき、毎年作製を依頼している。

同協会の緊急出動班9班約100人に加え、今年は研修として市建設部維持課、道路課、河川課から13人が参加。土のう作製機8台を使い、1袋20kgの土のうを手際よく作製した。完成した土のうは50袋ずつトンパックに詰め、氷鉋防災倉庫へ搬送。川合新田防災倉庫に保管されている土のうの中から約3千袋を市内支所など計18カ所へ分散搬送した。

作業前に同協会の小山田雄治副会長は「土のうは災害時の決壊や越水箇所などで使用され、市民の安心安全の一翼を担っている。活動を通じてチームワークを培い、いざという時に備えてほし



協力して、砂をつめた土のう袋を作製する参加者

い」と呼びかけた。

市議会の桜井篤建設企業委員長は「建設業界は災害時の地域の守り手として大きな役割を担っている。活動を通じ、防災力向上に協力してほしい」とあいさつ。市危機管理防災課の坂西玄課長は「近年は豪雨や台風災害が多発し、市民の防災意識も高まっている。万全を期し、安全に作業を進めてほしい」と述べた。

市維持課の和田大課長は「市職員はこれまで、土のうを作製する機会が少なかった。改めて土のうづくりを学び、防災意識や災害対応力を高めていきたい」と話していた。

安全・安心で持続可能な地域社会を実現



長野建設事務所
所長 江守 護

このたび、長野建設事務所長を拝命いたしました江守護でございます。就任にあたり、長野県建設業協会長野支部、長野市建設業協会の皆様にご挨拶申し上げます。

日頃より、地域の安全・安心の確保と社会資本の整備・維持管理において、貴協会の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。とりわけ災害時における迅速な応急対応や復旧活動など、地域の守り手として多大なるご尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表するものであります。

長野地域は豊かな自然に恵まれる一方、近年は豪雨災害の激甚化や大雪への対応など、防災・減災の重要性が一層高まっております。また、社会資本の老朽化が進む中で、計画的な維持管理と更新の推進が喫緊の課題となっております。こうした課題に的確に対応していくためには、地域に根ざした建設業の皆様との連携が不可欠であると認識しております。

道路事業では、一般県道三才大豆島中御所線の北長池～大豆島地区における4車線化を推進し、交通の円滑化と安全性の向上を図ってまいります。また、落合橋の架け替え事業につきましても、老朽化対策と交通拠点アクセス性の向上を目的に、着実に整備を進めてまいります。これらの取組は、地域の生活や産業を支える重要な基盤であり、その着実な推進に努めてまいります。

河川事業では、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に位置付けて進めてまいりました浅川の改修および排水機場が完成し、本年度より運用

を開始しております。これにより、流域の治水安全度の一層の向上が期待されるところであります。さらに、裾花ダムおよび奥裾花ダムにおいては、計画を上回る堆砂の進行によりダム機能の低下が懸念されていることから、貯水池内の堆積土砂の除去を実施するとともに、将来を見据えた恒久的な堆砂対策の検討を進めているところであります。あわせて、土砂災害対策や砂防施設の整備、インフラの長寿命化対策を引き続き推進するとともに、ICTの活用による維持管理の高度化・効率化にも取り組み、持続可能な社会資本の管理を目指してまいります。

また、建設業界においては、担い手の確保・育成や働き方改革、生産性向上などの課題がますます重要となっております。当事務所といたしましても、適正な工期設定や施工時期の平準化、設計・積算の適正化に努め、働きやすい環境づくりと建設産業の健全な発展に寄与してまいりたいと考えております。

今後とも、貴協会及び関係団体の皆様との意見交換を重ね、信頼関係のもとで地域づくりを進めてまいります。地域の守り手である皆様とともに、安全・安心で持続可能な地域社会の実現に取り組んでまいりますので、引き続きご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、両協会のみならずのご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げ、就任のごあいさつといたします。



建設関連図書販売サイト
Bookけんせい Plaza
積算資料・積算資料電子版・
土木施工単価・建築施工単価
<https://book.zai-keicho.or.jp/>



一般財団法人 経済調査会
〒108-0014 東京都港区芝5-34-2 ミタマテラス



総務委員長
高木亜矢子

総務委員長を仰せつかりました高木亜矢子です。建災防長野分会の活動は長く務めてまいりましたが、協会活動では初めての委員長で、良く分からずにお引き受けしてしまいました。皆様のお力添えをいただきながら、一つひとつ丁寧に取り組んでまいりたいと思っております。

総務委員会といえば「働き方改革」の推進！「働き方改革」は、毎日の仕事を安心して続けられるようにするための土台づくりだと考えています。無理のない工期と適正な価格、休みの取りやすさ、安全の徹底、書類の負担軽減、女性や若手が活躍できる環境、技能の継承。雪や山間地、災害対応といった長野ならではの事情も踏まえ、ど

んな取組みに会員企業にメリットがあるか思案中です。

時代の変化にも前向きに挑み、協会のデジタル化を検討していきたいです！FAXからの離脱、会議資料のデジタル化など、業界ではDX化！AI化！と言っているのに協会は後れを取っているように感じています。協会でもAIを取り入れ、問い合わせ対応や文書整理、定型作業の効率化など身近なところから使ってみて、効果と安全性を確かめながら広げられたらいいですね。

皆さんの声が、何よりの道しるべです。気づきや困りごと、提案をどうか気軽にお寄せください。皆様の土台となる総務委員会を目指してまいりますので、ご指導とご協力をお願いいたします。

ちなみにこちらの挨拶文とイラスト、AIに作ってもらいました笑。AIめちゃ便利ですよ～。



土木委員長
井上 善行

このたび 前原山委員長より引継ぎ土木委員長を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが一生懸命努めてまいりますので宜しくお願いします。

自分にとって建設業協会といえば、台風19号災害の時に現地に出動し、前例のない中、被災した町を何とか復旧するために昼夜を問わず作業をしていたというイメージがあります。

あの時、「こんな実際、片付けきれんのか」と思っていたのですが、協会と地元の皆さんが力を合わせて頑張って、ひと段落着くまでになりました。力を合わせれば大きなことができるんだな、と思いました。

先日、協会恒例の「災害対応土のう作成業務」に参加しました。私は主に各支所への運搬業務を行っています。毎年ほぼ同じ支所へ土のうを運ぶのですが、必ずと言っていいほど去年運搬した土のうが使われて無くなってしまっています。これは毎年、長野市のあちらこちらで小さな災害が起こっているという証拠になります。

私達が毎年作っている土のうは、市民の生活に役に立っているということになります。大きな災害の対応もそうですが、土のう作りも大切な活動だと感じました。

土のう作りも含め様々な活動を行い、この建設業界で社会に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、皆様のご支援ご協力をお願い致します。



建築委員長

服田 豊

この度、建築委員長を引き続き務めさせていただくこととなりました。

建築委員会に在籍してから早いもので12年の歳月が過ぎました。建築委員会ではワークショップや行政懇談会をはじめ、様々な諸問題や多くの課題に行政の皆様と取り組み、解決策を研究・検討、情報の共有・連携しながら相互のネットワーク形成を図ってまいりました。今年度も会の運営に全力で当たっていきたいと考えております。

建築委員会では2年に一度、社寺・仏閣・お城等の歴史的建築物の視察をしながら委員会の皆様でコミュニケーションを図っております。今年度は2016年G7サミットが開かれた三重県伊勢志摩

の会場を見学し、伊勢神宮や京都では数々の歴史的建造物をガイド案内していただき、参拝もでき、盛りだくさんの二泊三日の視察となりました。また2年後、委員会の皆様と視察先を検討し日本各地の歴史的建造物を見学することが楽しみです。

また、長野市協会では七二会にあるサザランドで木工教室を子供たちと一緒にっております。木の手ぬくもりを感じながらモノづくりの大切さ、みんなで作る楽しみなどを体験できるようサポートしております。椅子や机・ペンシルケースなどの箱類を作成したり、時には小屋の外壁張りなど大工さながらの仕事を子供達に体験させております。

引き続き諸先輩方が築き上げてこられたこの建築委員会を微力ではございますが委員長として一生懸命に務めさせていただきます。会員の皆様や関係者の皆様方のご協力・ご支援いただきますよう、お力添えをよろしくお願い申し上げます。



広報委員長

柳沢 昌宏

広報委員長を引き続き務めさせていただくことになりました。また委員会に新しい委員も加わり新たな気持ちで微力ではございますが、誠心誠意務めさせていただく所存ですので、委員の皆様はじめ関係者の皆様方のご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

建設業は、地域の皆様の安全・安心な暮らしと、社会経済の基盤づくりを担う誇り高き産業です。しかしながら、少子高齢化による担い手不足や、いわゆる「2024問題」に代表される働き方改革など、私たちが直面する課題は少なくありません。そこで当広報委員会では、建設業の持つ本来の「やりがい」「魅力」や「社会貢献の重要性」を、より広く、そして分かりやすく発信してまいります。

す。

建設業は今、大きな転換期を迎えています。デジタル技術の導入や環境配慮への対応など、時代に合わせた進化が求められています。こうした建設業の「新しい姿」や「現場で活躍する人々の姿」を掲載できるように考えております。

地域の皆様との絆を深め、建設業の未来を明るくするために、委員一丸となつて取り組んでまいります。

引き続き、当会の広報活動に注目いただけますようお願い申し上げます。

火薬類 使うあなたが責任者
正しい知識で良い管理 STOP!

長野火薬類保安協会

〒380-0936 長野市岡田町124-1

TEL:227-6226 FAX:228-6231



青年部会長
野村 和正

このたび青年部会長を務めさせていただくことになりました。

まだまだ何をしていけばよいのか模索中のところではありますが、精いっぱい活動していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

青年部は50才までの、いわゆる若手の集まりであり、元気が溢れている世代です。また、これからの建設業界を担っていかなければならないことはもとより、次代に繋げていく視野も持たなければならぬ世代になります。

そのような中、現在の社会は、全産業において人手不足に直面しており、DXへの対応、AIの活用と、デジタル技術をいかに取り入れ、駆使していくか、が求められています。建設業も同様の課題に晒されています。これらの課題に立ち向か

っていくためにも、若い世代は、多くの様々な経験、情報を得て、研鑽を積み重ねていかなければならないと思います。

青年部としては、これらの多くの課題を、学びと成長の機会と考え、県青年部会として連携した活動を展開してまいります。今年度は、2050年ゼロカーボン推進のためのアンケート、推進に伴う課題改善提言の取りまとめ、魅力発信プラットフォーム会議、長建ヤングマン投稿、建設フォトコンテスト、長野県との意見交換会、中学生を対象とした防災学習・体験学習の推進、若者へ「ものづくり」の魅力を伝える題材構築、等様々な企画をしております。

それぞれの企画を通じ、青年としての成長と、今後の建設業を見据える力を持てるようになれば喜ばしいと考えております。多くの皆様のご協力あつての青年部です。今後ともよろしくお願いいたします。



女性部会長
吉村 亜美

このたび、引き続き女性部会長を務めさせていただくこととなりました。2期目もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、皆様のご協力のもと、長野工業高等学校建築学科での講演や若手技術者との座談会の開催、「地域まるごとキャンパス」参加・企画など、さまざまな活動に取り組んでまいりました。また、県建設業協会女性部会設立10周年記念行事にも携わり、多くの皆様にご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今期も多くの方々のご協力いただきながら、女性や若い世代の皆さんに「建設業で働きたい」

「建設の仕事に携わりたい」と感じていただけるよう、建設業の魅力を広く発信し、業界の未来を担う人材づくりにつながる活動を進めてまいります。

笑顔のある「住まいづくり」は
当協会会員企業にお任せ下さい

JBN・全国工務店協会
長野県優良住宅協会

長野市岡田町124 (長水建設会館内)
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231



「休日は孫と」

(株)鹿熊組 土木工事部
所長 小島 泰輔

皆様こんにちは。

気づけばもう還暦を過ぎて62歳になる自分です。

子供も長男が結婚し、今は2歳と1歳の男の子の孫が2人おります。

よく「孫はかわいいよ～」と聞きますが、孫が生まれる前はさほど感じなかった自分でした。しかも、まだまだ爺さんになりたくないってね。そんな2年前、1人目の男の子の孫が誕生いたしました。

産まれた時はそんなに実感ってわかなかったのですが、誕生して何日か経過し、孫の名を呼んだら、ニコって笑うんです。そこからジジバカになった瞬間でもありました。

長男とは別居生活でして、普段は孫の顔は見れませんが、週末になると孫を連れてよく来ます。まだ首が座らない孫をお風呂に入れる嬉しさってたまりません。自分の子の時よりかわいいから不思議ですよ。ハイハイを始めた頃はニコニコして私の所に来ます。

初めて「ジジ」と呼ばれた時、「孫はかわいいよ～」と聞いた言葉、まさしくこれなんだと。1人目の孫が誕生して11カ月、2人目の男の子が

誕生いたしました、私は2人の孫のジジとなりました。ここから更にジジバカが加速します。

息子は毎週ではなく、平日でも孫を連れてくるようになりました。

なぜって、孫を風呂に入れてもらうためです。孫の長男は必ず私とお風呂に入るのが日課となっていて、「〇〇ベチャ入るぞ！」と言うと一目散に脱衣所に走ってきます。ニコニコした笑顔の孫と風呂に入っていると癒されますね。

また、孫がおもちゃなどに興味を持ち始めると、ついつい買ってあげてしまいます。「これか？これがいいのか？よしこれ買おう」って、なんでも買ってあげちゃう私に息子が「ダメだよ！なんでも買ってあげちゃ！」ってしょっちゅう怒られています。

なので、内緒で買ってあげたおもちゃは息子の家ではなく自宅に置いて、来た時に遊ばせるようにしています。今度は何を買ってあげようかな？とあれこれネットでの検索も楽しみの一つです。

近日では2人の孫も保育園や幼稚園に通園していて、日々の成長がすごくわかるようになりました。

最近、週末になると「ジジ行く」「ジジどこ」ってテレビ電話が来ますので、休日は息子の家に行って孫の子守をしたり、息子の家族と出かけた日が増えました。今ではそんな休日を楽しんでおります。

最後になりますが、この記事が広報誌に掲載される頃、3人目の孫が誕生していると思います。



除雪ドーザに乗って喜ぶ孫



孫と過ごす休日

松代城二の丸と花の丸

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

現在、真田宝物館で開催中の特別展「松代城 花の丸―真田家の御殿―」は、これまで取り上げたことがなかった、松代城三の丸に繋がる、花の丸御殿について紹介するものです。花の丸御殿は、建物が現存せず、敷地跡も住宅地となっているため、研究が進み辛いということがありました。しかし長年、松代城に関する資料を収集してきた中で、現時点でわかっていることを発表する場として特別展を企画しました。さらに、本丸の東側にあたり、現在は広場となっている二の丸についても、資料から見えてきたことがあります。そこで、今回は、3代から6代藩主の頃の二の丸と花の丸について、居住した人々を中心にご紹介します。

二の丸についてはすでに研究があり、真田家入封以前から、鉄砲などの武具類が配置された場所があったことがわかっています。その後松代藩真田家初代藩主である真田信之の娘・見樹院など、藩主の近親者が居住する場所であったと考えられています。一方、花の丸は、従来の研究では、もとは藩主の遊園の地であり、1770（明和7）年に本丸御殿から、その機能が移されたとされています。以下、家老日記などの記述をもとに、二の丸と花の丸のあり方を見ていきましょう。

1717（享保2）年春には相次いで松代城下を大火が襲い、1721（享保6）年には洪水のため、城中にも水が入っています。こうしたことに関連するのか、1724（享保9）年には新たに花の丸に建物を建てる儀式を行っています。1727（享保12）年には、3代藩主・幸道が亡くなり、4代藩主に信弘が就任します。その直後、本丸の地鎮祭を行っていますので、新藩主のために、本丸御殿を増改築したものと思われます。すなわち、信弘の時代は、本丸と花の丸両方に、居住可能な建物があったのです。1732（享保17）年、参勤交代で信弘が松代に戻ってきた際には、着城後、まず本丸に入り、その後花の丸に移動し、子どもたちに面会しています。

信弘の正室は信弘が藩主に就任する前に亡くなっており、藩主となった時には、江戸に「御奥

現在の二の丸広場と土塁



様」と呼ばれる側室とその子たち、松代に「御部屋様」と呼ばれる側室とその子たちがいました。この、松代にいた側室と子どもたちが、花の丸に住んでいたのです。

1736（元文元）年末に信弘が死去すると、年が明けた2月、信弘の子で江戸にいた信安が5代藩主となりました。9月には、二の丸で地鎮祭を行い、普請を始めています。この時点でも、先代藩主・信弘の側室「御部屋様」とその子4人は花の丸に住んでおり、彼らの住まいとなる二の丸御殿を新築したとみられ、1738（元文3）年には、二の丸へ移り住んでいます。同年には江戸で、信安の側室が娘を出産し、1740（元文5）年には、同じ側室が、後に6代藩主となる幸弘（豊松）を、松代で産んでいます。幸弘が産まれた場所はわかりませんが、あるいは花の丸だったのかもしれませんが。つまり、先代・信弘の家族が松代にいたため、信安の時代に、それぞれの家族の居宅として、二の丸、花の丸が利用されたと考えられるのです。これは、本丸御殿が比較的手狭だったこともあり、人数が増えた藩主家族の居住空間を増やすためだったとみられます。

1754（宝暦4）年には、二の丸の居住者がいなくなり、1759（宝暦9）年に、二の丸の奥向きを取り壊されています。花の丸は、5代藩主・信安家族の居住スペースとして使用されていたと思われますが、はっきりしません。6代藩主に幸弘が就任した後に、本格的に花の丸に御殿を移しています。

当たり前ですが、このようにその時代によって松代城の使われ方や使われた場所が異なっていたことがわかってきています。現在も整備が進められている松代城で、多くの人々が行き交ったことを想像しながら散策していただけると嬉しいのです。

建災防長野県支部

分会長に 鹿熊聡氏を新任



建設部会長に 小山田雄治氏を新任



建設業労働災害防止協会県支部長野分会と同協会建設部会は6月16日、長野市内のホテルで本年度定時総会を開催、任期満了に伴う役員改選で、分会長に鹿熊聡氏、建設部会長に小山田雄治氏を新任。安全指導者会長に藤森将一氏を再任した。

鹿熊新分会長は「今日を皮切りに本年度事業が始まる。担い手不足や資材価格高騰など厳しい環境が続くが、パトロールや集団指導等を通じて、安全で快適な職場づくりと安全意識の向上を図り、災害防止に全力で取り組む」と意気込みを語った。小山田新部会長は「これ以上、一件の重大災害、死亡災害も発生させないよう全員で取り組もう」と呼びかけた。

県土木施工管理技士会

長野支部 新支部長に大日方氏



県土木施工管理技士会長野支部は6月9日に第42回通常総会（代議員総会）を開き、任期満了に伴う役員改選で、支部長に大日方喜一氏を新任した。副支部長には、小山田雄治氏を再任し、清水信寿氏、村松直敏氏を新任した。

大日方新支部長は「発注者に提出する竣工書類の電子納品化が進み、建設技術は大きく変化している。働き方改革が進む中で、段階確認に遠隔臨場システムを活用すればリスク低減にもつながる。慣れれば非常に有効な仕組みになるので活用してほしい」と述べ、「土木施工管理技術検定受験準備講習会講師の皆さんにも、引き続き支援をいただきながら、活発な支部活動ができるよう新執行部として精いっぱい取り組んでいく」と抱負を述べた＝写真。

犀協会

新会長に小池毅夫氏



犀協会は5月27日、2026年度通常総会を長野市内のホテルで開き、25年度事業報告・収支決算、26年度会費・事業計画・収支予算を承認した。任期満了に伴う役員改選では、会長に小池毅夫氏を新任した。副会長には倉品秀也氏を再任し、松本英則氏（高木建設）を新任した。

小池新会長は「前任の池田正彦会長の方針を引き継ぎ、土尻川砂防事務所を支えながら地域住民や会員を大切に、協力して事業を進めていきたい。歴史ある犀協会を90年、100年と続く団体となるよう努力していく」と抱負を述べた＝写真。

北信建設事業協同組合

理事長に 鹿熊聡氏を再任



北信建設事業協同組合は5月28日、長野市県町のホテル国際21で2026年度通常総会を開いた。任期満了に伴う役員改選で鹿熊聡理事長（長野支部）を再任した。副理事長に山崎喜彰（須坂支部）、藏谷伸太郎（中高支部）、野澤敏（長野支部）、藤巻篤（飯山支部）の各氏を再任、武田敏光氏（更埴支部）を新任した。

鹿熊理事長は「資材価格や人件費の上昇などで今後の経営環境は一層厳しくなると予想される。理事・監事、組合員が一丸となって難局を乗り切っていこう」と呼びかけた。

長野火薬類保安協会

会長に 小山田雄治氏を再任



長野火薬類保安協会は7月2日、長水建設会館で第68回通常総会を開催。任期満了に伴い6月3日に開催した役員会で、会長に県建設業協会長野支部副支部長の小山田雄治氏を再任、副会長に森川修一氏、原山大輔氏を新任したことを報告した。

小山田会長は「昨年は、火薬類による死亡事故はなかったが、被災者数は一昨年を大きく上回った。長野地域における火薬類に係る協会として、事故と災害の未然防止の観点から、より一層の法令順守と保安の確保、安全対策の強化に努めていかなければならない」と強調した。

株式会社 長水建設会館

社長に 湯本宜成氏を再任



株式会社長水建設会館は5月25日に第62期株主総会を開き、任期満了に伴う役員改選で、前長野市建設業協会長の湯本宜成氏を再任し、副社長に県建設業協会長野支部長の鹿熊聡氏を新任した。専務に長野市建設業協会長の川浦俊樹氏を再任、常務に同協会専務理事の金井良雄氏を新任した。

湯本社長は「施設の老朽化や原材料高騰など不安が多い中、支部と市の建設業2団体に協力いただきながら、今後も会館のあり方を考えていく」とあいさつした＝写真。

2階の空きテナントに6月から求人ジャーナルが入居した。

長野県優良住宅協会

会長に 野本大介氏を再任



県優良住宅協会は6月23日に長野市内で第19回通常総会を開き、2026年度事業計画などを原案通り承認。任期満了に伴う役員改選で、野本大介会長、飯島泰臣副会長、中嶋大介同ら全役員を再任した。

野本会長は「今後も力を合わせ住宅の品質向上を目指し、県民に信頼される住まいづくりに取り組んでいく。会員の役に立つ組織として、JBN（全国工務店協会）と連携しながら鋭意活動していく」と意気込みを語った。

長野県建設業協会長野支部

- 5月 13日 △定時総会
- 5月 19日 △二団体正副会議
- 5月 25日 △県建設業協会通常総会
- 5月 26日 △建設技術実践プロジェクト打合せ会
- 6月 5日 △長野地区特定家畜伝染病防疫対策担当者会議
- 6月 15日 △委員会編成会議
- 6月 25日 △長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会役員会
- 6月 26日 △長野工業高校授業支援「丁張実習」事前準備
- 6月 29日 △長野工業高校授業支援「丁張実習」

長野市建設業協会

- 5月 19日 △通常総会△二団体正副会議
- 5月 22日 △土のう作製
- 6月 15日 △委員会編成会議
- 6月 22日 △広報委員会

関連団体

- 5月 8日 犀協会：△事前監査会△役員会
- 5月 12日 火 薬：△正副会長会議
- 5月 15日 技士会：△役員会△監査会
- 5月 18日 建災防：△建設業等における作業者のための熱中症予防教育△建設業等における熱中症予防指導員・管理者研修
- 5月 20日 建災防：△役員会△監査会
- 5月 25日 会 館：△株主総会
- 5月 26日 建災防：△労働災害防止連絡会議
- 5月 27日 犀協会：△定時総会
- 5月 28日 長住協：△役員会△監査会
- 5月 29日 建災防：△建災防県支部代議員総会
長住協：△関東地方整備局 建設産業・住宅分野における中東情勢を踏まえた関係団体連絡会議
- 6月 3日 火 薬：△役員会△監査会
- 6月 6日 技士会：△1級・2級土木施工管理技士受験準備講習会
- 6月 8日 建災防：△丸のこ等取扱作業従事者教育
- 6月 9日 技士会：△通常総会
- 6月 13日 技士会：△1級・2級土木施工管理技士受験準備講習会
- 6月 16日 建災防：△分会（建設部会）定時総会△安全大会
- 6月 17日 技士会：△県技士会代議員総会△役員会
長住協：△関東地方整備局 建設産業・住宅分野における中東情勢を踏まえた対応について（ヒアリング）
- 6月 20日 技士会：△1級・2級土木施工管理技士受験準備講習会
- 6月 22日 火 薬：△保安教育講習会
- 6月 23日 長住協：△通常総会

- 6月 24日 建災防：△自由研削用といしを取替え等業務に係る特別教育
- 6月 27日 技士会：△1級・2級土木施工管理技士受験準備講習会

会員動静

●社名変更（支部・市正会員）

廻 RINKASA(株) 回 林業笠原造園(株)

●社名変更（支部2号会員）

廻 EV電気工(株) 回 EV電気工合同会社

●代表者変更（支部・市正会員）

RINKASA(株) 廻 竹内 幸利 回 笠原 通川中島建設(株) 廻 龍神 勉 回 笠井 澄人

●代表者変更（市賛助会員）

(株)角藤 廻 大久保鋭一 回 大久保公雄

●所在地変更（支部2号会員）

EV電気工(株) 廻 長野市大豆島5060-12
回 長野市吉田5丁目20-7

編集後記

6月に入り、梅雨の季節となりましたが、梅雨入り10日ほどしても傘をさす機会が少ないですね。暑さの方が気になる2026年の6月です。梅雨という漢字の語源は幾つかあるようですが、梅が熟す時期に降る雨という説がありますが、自分としては納得です。

梅雨時期は自然の恵みが豊富になり、山の動物も活発になり特に熊が話題になります。

人里への出没がニュースになるたびに、私たちの暮らし方が野生動物の生活を変えているのだと感じます。本来の生活圏を分かち合う方法を考えてながら、梅雨を穏やかに過ごしていきたいものです。

(小林和雄)

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

<https://sikenkyo.sakura.ne.jp/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-224-3660 Fax026-228-6231

長野県建設業協会長野支部

<http://w2.avis.ne.jp/~nkn/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 鹿熊 聡 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.238 令和8年7月発行